

# 国 語

## (古典A)

発行者の番号略	教科書の記号番	判 型	総ページ数	検定済年
2 東書	古A301	A5	222	平成25年
17 教出	古A302	A5	248	
109 文英堂	古A303	A5	176	
109 文英堂	古A304	A5	156	
183 第一	古A305	A5	218	
15 三省堂	古A306	B5	144	平成26年
50 大修館	古A307	A5	274	
109 文英堂	古A309	A5	138	
109 文英堂	古A311	A5	136	
143 筑摩	古A312	A5	160	
183 第一	古A313	A5	200	
183 第一	古A314	A5	244	平成29年

※総ページ数は、目録に記載されている数

# 1 調査の対象となる教科書の冊数と発行者及び教科書の番号

古典A	冊数	12冊
発行者の略称・教科書の番号	東書301 教出302 文英堂303 文英堂304 第一305 三省堂306 大修館307 文英堂309 文英堂311 筑摩312 第一313 第一314	

## 2 学習指導要領における教科・科目の目標等

### 【国語の目標】

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

### 【古典Aの目標】

古典としての古文と漢文、古典に関連する文章を読むことによって、我が国の伝統と文化に対する理解を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。

### 【古典Aの内容及び内容の取扱い】

「内容」の抜粋	「内容の取扱い」の抜粋
<p>ア 古典などに表れた思想や感情を読み取り、人間、社会、自然などについて考察すること。</p> <p>イ 古典特有の表現を味わったり、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解したりすること。</p> <p>ウ 古典などを読んで、言語文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解すること。</p> <p>エ 伝統的な言語文化についての課題を設定し、様々な資料を読んで探究して、我が国の伝統と文化について理解を深めること。</p>	<p>(1) 古文と漢文の両方又はいずれか一方を取り上げることができる。</p> <p>(2) 古典を読む楽しさを味わったり、伝統的な言語文化に触れることの意義を理解したりすることを重視し、古典などへの関心を高めるようにする。</p> <p>(3) 教材については、次の事項に留意するものとする。</p> <p>ア 教材は、特定の文章や作品、文種や形態などについて、まとまりのあるものを中心として適切に取り上げること。</p> <p>イ 教材には、古典に関連する近代以降の文章を含めること。また、必要に応じて日本漢文、近代以降の文語文や漢詩文などを用いることができること。</p> <p>ウ 教材は、次のような観点に配慮して取り上げること。</p> <p>(ア) 古典を進んで学習する意欲や態度を養うのに役立つこと。</p> <p>(イ) 人間、社会、自然などに対する様々な時代の人々のものの見方、感じ方、考え方について理解を深めるのに役立つこと。</p> <p>(ウ) 様々な時代の人々の生き方や自分の生き方について考えたり、我が国の伝統と文化について理解を深めたりするのに役立つこと。</p> <p>(エ) 古典を読むのに必要な知識を身に付けるのに役立つこと。</p> <p>(オ) 現代の国語について考えたり、言語感覚を豊かにしたりするのに役立つこと。</p> <p>(カ) 中国など外国の文化との関係について理解を深めるのに役立つこと。</p>

### 3 教科書の調査研究

#### (1) 内容

##### ア 調査研究の総括表（調査結果は「別紙1」）

	調査項目	対象の根拠（目標等との関連）	数値データの単位
a	古文の文章教材の数と古典における割合（作品名と作者名は「別紙2」）	内容の取扱い《古文と漢文の両方又はいずれか一方を取り上げることができる。》	個、%
b	漢文の文章教材の数と古典における割合（作品名と作者名は「別紙2」）	内容の取扱い《古文と漢文の両方又はいずれか一方を取り上げることができる。》	個、%

##### イ 調査項目の具体的な内容（調査結果は「別紙2」）

###### ① 教科書の特徴をより明確にするため、具体的に調査研究する事項

<上記調査項目関連>

- a 古文の文章教材の作品名と作者名
- b 漢文の文章教材の作品名と作者名

<その他>

- \* 北朝鮮による拉致問題の扱い（調査の結果、記載のないことを確認した。）
- \* 防災や、自然災害の扱い（調査の結果、記載のないことを確認した。）
- \* オリンピック、パラリンピックの扱い（調査の結果、記載のないことを確認した。）

###### ② 具体的に調査研究する事項を設定した理由等

- ・ 高等学校学習指導要領では、古典Aの「内容の取扱い」において「古文と漢文の両方又はいずれか一方を取り上げることができる。」とあることから、古文・漢文それぞれの文章教材として、どのような作品を掲載しているのかを調査する。
- \* 北朝鮮による拉致問題については、東京都教育委員会教育目標の基本方針1に基づき、人権尊重の理念を正しく理解できるようにするため、その扱いについて調査する。
- \* 東京都では、自然災害時における被害を最小化し、首都機能の迅速な復旧を図る総合的なリスクマネジメント方策の確立が喫緊の課題であり、防災教育の普及等により地域の防災力の向上が重要であることから、防災や自然災害の扱いについて調査する。
- \* 東京都教育委員会教育目標の基本方針2・3に基づき、文化・スポーツに親しみ、国際社会に貢献できる日本人を育成するという観点から、オリンピック・パラリンピックの扱いについて調査する。

#### (2) 構成上の工夫（調査結果は「別紙3」）

- ① 言語文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係に関わる文章教材の扱い方
- ② 古典に関連する近代以降の文章教材の扱い方
- ③ 日本漢文、近代以降の文語文や漢詩文教材の扱い方
- ④ 編集上の工夫・その他

「別紙1」 【(1) 内容 ア 調査研究の総括表】 (古典A)

調査項目			a		b		
			と古文の文章に用いられる材料の割合	と漢文の文章に用いられる材料の割合	個	%	
発行者	教科書番号	教科書名	個	%	個	%	(教材として数えた数の合計)
東書	301	古典A	38	71.7	15	28.3	53
教出	302	古典文学選 古典A	42	71.2	17	28.8	59
文英堂	303	説話(古今著聞集・沙石集・十訓抄・竹取物語) 随筆(徒然草・枕草子・方丈記・常山紀談・花月草紙・蘭東事始) 故事・小話 漢詩 史話	38	54.3	32	45.7	70
文英堂	304	源氏物語・大鏡・評論	42	100.0	0	0.0	42
第一	305	高等学校 標準古典A 物語選	46	70.8	19	29.2	65
三省堂	306	古典A	20	60.6	13	39.4	33
大修館	307	古典A 物語選	49	65.3	26	34.7	75
文英堂	309	物語(竹取物語 伊勢物語 大和物語 落窪物語 源氏物語 堤中納言物語) 和歌(古今和歌集 後撰和歌集 拾遺和歌集) 随想・日記(枕草子 和泉式部日記 紫式部日記)	31	100.0	0	0.0	31
文英堂	311	徒然草 説話(古今著聞集 十訓抄 宇治拾遺物語 古事談 今昔物語集) 枕草子	59	100.0	0	0.0	59
筑摩	312	古典A [古文・漢文] 物語・史伝選	28	73.7	10	26.3	38
第一	313	高等学校 古典A 大鏡 源氏物語 諸家の文章	44	83.0	9	17.0	53
第一	314	高等学校 改訂版 標準古典A 物語選	52	72.2	20	27.8	72
平均値			41	75.2	13	24.8	

・a及びbは調査対象を本文全体とし、教材を補足するコラムや資料等については教材として数えず、その扱いを「別紙3」に記述した。  
 ・古文の文章(物語、随筆、説話、日記など)は教科書中(一つのまとまりとして掲載された段、編などを1教材として数えた。  
 ・aのうち、和歌については教科書の編集上の一つのまとまり(例:「万葉集」として十数首をまとめて1教材として編集したもの)を1教材として数えた。  
 ・aのうち、古典に関連する近代以降の文章教材については、古文教材としては数えず、その扱いを「別紙3」に記述した。  
 ・漢文の文章については、教科書編集上の意図に沿って、まとめられた1編・1段などの1部分を1教材として数えた。  
 ・bのうち、漢詩については1編を1教材として数えた。  
 ・bのうち、「論語」については、教科書編集上の意図に沿って、複数の章をまとめた1部分を1教材として数えた。  
 ・a及びbで数えた教材については、「別紙2」に教材名等を記述している。

「別紙2」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 東書301】 (古典A)

a 古文の文章教材の作品名と作者名			b 漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
月やあらぬ	伊勢物語		孟母断機	列女伝	劉向
狩りの使ひ			夢為胡蝶	莊子	莊周
小野の雪			從瀨鳥游	列子	列禦寇
安積山	大和物語		直躬	論語	
うつほ物語	うつほ物語		直躬	韓非子	韓非
とりかへばや物語	とりかへばや物語		崔杼弑其君	春秋左氏伝	
松浦宮物語	松浦宮物語	藤原定家	子路請為弟子		
住吉物語	住吉物語		嗟乎、由死矣		
なにがしの院	源氏物語	紫式部	大丈夫当如此也	史記	司馬遷
野宮の別れ			法三章耳		
新春の六条院			威加海内兮歸故郷		
螢火			国土無双		
唐猫の綱			多多益善		
薫の御五十日			孺子、下取履		
宇治の姫君たち			良薬苦口		
橘の小島					
むなしき御文					
時平の大臣					
最後の除目					
隆家と道長					
東三条院と道長					
鶯宿梅					
翁たちの退場					
伊周・隆家の配流	栄花物語				
歌人頼実	今鏡	寂超			
新島守	増鏡				
足摺	平家物語				
知章最期					
横笛					
俊基朝臣海道下り	太平記				
秘する花を知ること	風姿花伝	世阿弥			
稽古も歌口も同じほどの人の	ささめごと	心敬			
わが父のこと	折たく紫の記	新井白石			
老僧が接ぎ木	駿台雑話	室鳩巢			
おのれいと若かりける時	歌意考	賀茂真淵			
師の説になづまざること	玉勝間	本居宣長			
落葉	藤羹冊子	上田秋成			
初瀬の郭公	琴後集	村田春海			
古文小計			漢文小計		
(38)			(15)		

「別紙2」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 発行者 教出302】 (古典A)

a 古文の文章教材の作品名と作者名			b 漢文の文章教材の作品名と作者名				
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等		
初冠	伊勢物語		季札挂劍	史記	司馬遷		
月やあらぬ			晏子使楚	晏子春秋			
筒井筒			先從隗始	十八史略	曾先之		
目離れせぬ雪			俊出袴下	史記	司馬遷		
つひにゆく			鴻門の会				
姨捨山	大和物語		四面楚歌				
安積山			項王の最期				
後に会はむと			題烏江亭	樊川文集	杜牧		
和歌の諸相			万葉集(4)	大伯皇女・大津皇子	竹里館	唐詩選	王維
	古今和歌集(3)	詠み人知らず・伊勢	芙蓉楼送辛漸	王昌齡			
	後撰和歌集(3)	在原元方・中務・源信明	秋浦歌	李白			
	拾遺和歌集(4)	清原元輔・源満中・能因・西行	楓橋夜泊	張繼			
	忠度都落ち	平家物語		桃花源記	陶淵明集		陶潜
先帝入水	関羽と張飛			三国志	陳寿		
能登殿最期	諸葛孔明			十八史略	曾先之		
面影ばかり	建礼門院右京大夫集	建礼門院右京大夫	赤壁の戦い	十八史略	曾先之		
行く川の流れ	方丈記	鴨長明	蜀相	杜工部集	杜甫		
養和の飢饉							
日野山の閑居	大鏡						
道真左遷							
三船の才							
中宮安子の嫉妬							
兼通と兼家の確執							
若き日の道長							
道長と隆家							
鶯宿梅							
二月つごもり頃に			枕草子	清少納言			
殿などのおはしまさで後							
中納言参り給ひて							
この草子、目に見え、心に思ふことを	源氏物語	紫式部					
光源氏の誕生							
若紫との出会い							
二条院に引き取られた若紫							
光源氏、須磨への退去							
紫の上の嫉妬							
養母紫の上							
六条院の女君							
紫の上の死							
追憶の日々	無名草子						
清少納言							
紫式部	無名抄	鴨長明					
関路の落葉							
静縁のこけ歌のこと							
もののあはれ	源氏物語玉の小櫛	本居宣長					
夢応の鯉魚	雨月物語	上田秋成					
古文小計			(42)				
			漢文小計				
			(17)				

「別紙2」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 発行者 文英堂303】 (古典A)

a 古文の文章教材の作品名と作者名			b 漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
母子猿	古今著聞集		矛盾	韓非子	韓非
児の飴食ひたること	沙石集		五十歩百歩	孟子	
文字一つの返し	十訓抄		螢雪	蒙求	李瀚
なよ竹のかぐや姫	竹取物語		孟母三遷		
つれづれなるままに			守株	韓非子	韓非
後徳大寺大臣の			嬰逆鱗		
神無月のころ			管鮑之交	十八史略	曾先之
雪のおもしろう降りたりし朝			推敲	唐詩紀事	計有功
五月五日、賀茂のくらべ馬を			画竜点睛	歴代名画記	張彦遠
仁和寺にある法師			四面楚歌	史記	司馬遷
これも仁和寺の法師			先從隗始	十八史略	曾先之
大事を思ひたたん人は			朝三暮四	列子	
延政門院			蛇足	戦国策	劉向
名を聞くより			苛政猛於虎也	礼記	
世に語り伝ふること			塞翁馬	淮南子	劉安
奥山に、猫またといふものありて			漱石枕流	世説新語	劉義慶
ある人、弓射ることを習ふに	徒然草	兼好法師	狐借虎威	戦国策	劉向
双六の上手といひし人に			水魚之交	三国志	陳寿
悲田院の堯蓮上人は			過猶不及	論語	
心なしと見ゆる者も			糟糠之妻	後漢書	范曄
能をつかんとする人			漁父利	戦国策	劉向
相模守時頼の母は			春暎	唐詩選	孟浩然
よろづの道の人			江雪	唐詩三百首	柳宗元
ある者、子を法師になして			涼州詞	唐詩選	王翰
今日は、そのことをなさんと			送元二使安西	三体詩	王維
園の別当入道は			春望	唐詩三百首	杜甫
主ある家には			除夜宿石頭駅	三体詩	戴叔倫
丹波に出雲といふ所あり			香炉峰下新卜山居、草堂初成、偶題東壁	白氏文集	白居易
八つになりし年			黄鶴楼	唐詩選	崔顥
春はあけぼの			桃夭	詩經	
ありがたきもの	枕草子	清少納言	子夜呉歌	唐詩選	李白
五月ばかりなどに山里にありく			鴻門之会	史記	司馬遷
雪のいと高う降りたるを					
ゆく河の流れ	方丈記	鴨長明			
安元の大火					
山吹の花	常山紀談	湯浅常山			
庭の真木	花月草紙	松平定信			
フルヘツヘンド	蘭東事始	杉田玄白			
	古文小計	(38)		漢文小計	(32)

「別紙2」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 発行者 文英堂304】 (古典A)

a 古文の文章教材の作品名と作者名			b 漢文の文章教材の作品名と作者名				
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等		
桐壺 (光源氏の生誕)	源氏物語	紫式部					
桐壺 (母更衣の死)							
桐壺 (賢き相人)							
夕顔 (夕顔の宿)							
夕顔 (霧深き暁)							
夕顔 (麿院の怪)							
若紫 (雀慕ふ少女)							
須磨 (須磨の秋)							
明石 (嵐の夜)							
玉蔓 (巡り合ひ)							
蛭 (まことと偽り)							
蛭 (物語の本質)							
野分 (野分の六条院)							
御法 (病める紫の上)							
宇治十帖 東屋 (中の君と浮舟)							
宇治十帖 浮舟 (入水の決意)							
宇治十帖 夢の浮橋 (小野の山里)							
宇治十帖 夢の浮橋 (返りごとせぬ浮舟)							
雲林院にて	大鏡						
花山院の出家							
筑紫の道真							
素腹の後							
宣耀殿の女御							
堀河殿、最後の参内							
隆家と道長							
三船の誉れ							
影をば踏まで、面をや踏まぬ							
競射							
女院と道長							
鶯宿梅							
巻末							
やまと歌は (歌論)			古今和歌集	紀貫之			
和泉式部・赤染衛門・清少納言 (人物論)			紫式部日記	紫式部			
いとめでたきもの (文についての論)	無名草紙						
紫式部と『源氏物語』 (『源氏』成立論)							
深草の里 (歌論)	無名抄	鴨長明					
初心忘るべからず (能楽論)	花鏡	世阿弥元清					
発端 (俳論)	笈の小文	松尾芭蕉					
柴門の辞 (俳論)	風俗文選						
先師評 (俳論)	去来抄	向井去来					
不易流行 (俳論)	三冊子	服部土芳					
「もののおはれ」といふこと (文芸論)	源氏物語玉の小櫛	本居宣長					
古文小計			漢文小計				
(42)			(0)				



「別紙2」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 発行者 第一305】 (古典A)

a 古文の文章教材の作品名と作者名			b 漢文の文章教材の作品名と作者名			
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等	
文字一つの返し	十訓抄		助長	孟子	孟軻	
小式部内侍が大江山の歌の事	古今著聞集		嬰逆鱗	韓非子	韓非	
火鼠の皮衣	竹取物語		画竜点睛	歴代名画記	張彦遠	
帝の求婚			推敲	唐詩紀事	計有功	
かぐや姫の昇天	伊勢物語		水魚之交	十八史略	曾先之	
初冠			赤壁之戰			
通ひ路の関守			死諸葛走生仲達			
小野の雪			鹿柴			
苔の衣	大和物語		絶句	唐詩選	王維	
姨捨			峨眉山月歌		杜甫	
うつほの母と子	宇津保物語		春夜		李白	
公世の二位のせうとに	徒然草	兼好法師	臨洞庭		蘇軾	
相模守時頼の母は			遊山西村	孟浩然		
吉田と申す馬乗り			鴻門之会	陸游		
よるづのことは頼むべからず	方丈記	鴨長明	史記		司馬遷	
ゆく川の流れ			孟子	孟子(二編)	孟軻	
安元の大火	枕草子	清少納言	老子	老子(二編)	老子	
春は、あけぼの			韓非子	韓非子(二編)	韓非	
鳥は	平家物語		枕中記	文苑英華	沈既濟	
中納言参り給ひて						
忠度の都落ち						
能登殿の最期						
大原御幸						
雲林院の菩提講						
延喜の帝						
時平と道真						
道隆と福足君						
道長の豪胆						
弓争ひ						
道長と伊周						
三舟の才						
鶯宿梅						
万葉集	万葉集(10首)	額田王、大海人皇子、柿本人麻呂、山上憶良、山部赤人、大伴家持、東歌、防人歌				
古今和歌集	古今和歌集(仮名序+7首)	紀貫之、凡河内躬恒、僧正遍昭、壬生忠岑、清原深養父、よみ人知らず、小野小町				
新古今和歌集	新古今和歌集(6首)	藤原定家、後鳥羽院、藤原家隆、式内親王、藤原俊成女、西行法師				
光る君誕生	源氏物語	紫式部				
夕顔						
若紫						
葵の上						
須磨の秋						
明石の君と姫君						
貝合	堤中納言物語					
紺坏の水	蜻蛉日記	藤原道綱母				
日本紀の御局	紫式部日記	紫式部				
門出	更級日記	菅原孝標女				
源氏の五十余巻						
古文小計			漢文小計			
(46)			(19)			

「別紙2」 【(1) 内容イ 調査項目の具体的な内容 発行者 三省堂306】 (古典A)

a 古文の文章教材の作品名と作者名			b 漢文の文章教材の作品名と作者名			
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等	
蜂飼いの大臣	古事談	源顕兼	塞翁が馬	淮南子	劉安	
恵心僧都の母	発心集	鴨長明	朝三暮四	列子	列禦寇	
百鬼夜行	宇治拾遺物語		杞憂	列子		
観音になった男			孔子の人となり (論語 4章)	論語		
呪いを知らせた犬			孔子と政治 (論語 2章)			
絵仏師の執心			大道廢れて、仁義有り	老子	老子	
夢を買う			天下水より柔弱なるは莫し			
袴垂と保昌			混沌	莊子	莊周	
後の千金			竹里館	唐詩選	王維	
応天門炎上			峨眉山月歌			李白
歌詠みの徳			臨洞庭			
絵師と大工			今昔物語集		登高	杜甫
玄象の琵琶	三たび往きて、乃ち見る	三国志			陳寿	
姨母捨山						
武士の祭り見物						
笛吹き成方	十訓抄					
行成と実方						
義家と宗任	古今著聞集	橘成季				
女盗賊						
相撲の勝負						
古文小計		(20)	漢文小計		(13)	

「別紙2」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 発行者 大修館307】 (古典A)

a 古文の文章教材の作品名と作者名			b 漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
安倍清明	今昔物語集		知音	呂氏春秋	呂不韋
小野篁広才のこと	宇治拾遺物語		画竜点睛	歴代名画記	張彦遠
検非違使忠明のこと			漱石枕流	世説新語	劉義慶
大江山いくの道	十訓抄		不死之薬	韓非子	韓非子
すさまじきもの			売油翁	帰田録	歐陽脩
木の花は			鴻門の会「沛公項王に見ゆ」		
中納言参りたまひて	枕草子	清少納言	鴻門の会「樊噲目を瞋らして視る」	史記	司馬遷
二月つごもりごろに			項王の最期「四面皆楚歌す」		
九月ばかり			項王の最期「我何の面目ありて之に見えん」		
野分のまたの日こそ			竹里館	唐詩選	王維
この草子、目に見え心に思ふことを			秋浦歌		李白
行く河の流れ	方丈記	鴨長明	江南春	三体詩	杜牧
安元の大火			春夜	蘇文忠公全集	蘇軾
家居のつきづきしく			送友人	唐詩選	李白
名を聞くより			月夜	唐詩三百首	杜甫
世に語り伝ふること	徒然草	兼好法師	咸陽城東樓	三体詩	許渾
今日はそのことをなさんと思へど			桃夭	詩経	
丹波に出雲といふ所あり			石壕吏	杜工部集	杜甫
断章三編(第三五段・第九七段・第一二七段)			定伯売鬼	搜神記	干宝
かくや姫の昇天	竹取物語		桃花源記	陶淵明集	陶潜
初冠			孔子と門人たち(論語4章)	論語	
月やあらぬ	伊勢物語		不忍人之心	孟子	孟子
関守			人之性悪	荀子	荀子
つひにゆく道			小国寡民	老子	老子
をばすて	大和物語		曳尾於塗中	莊子	莊子
桐壺			慢官之害	韓非子	韓非子
若紫	源氏物語	紫式部			
葵					
須磨					
若菜上					
御法					
雲林院の菩提講					
花山院の出家					
道真左遷	大鏡				
三船の才					
龍べ弓					
鶯宿梅					
忠度都落ち	平家物語				
能登殿最期					
大晦日は合はぬ算用	西鶴諸国ばなし	井原西鶴			
浅茅が宿	雨月物語	上田秋成			
阿倍仲麻呂の歌	土佐日記	紀貫之			
白波					
町の小路の女	蜻蛉日記	藤原道綱の母			
薫る香に	和泉式部日記	和泉式部			
和泉式部と清少納言	紫式部日記	紫式部			
あこがれ					
源氏の五十余巻	更級日記	菅原孝標の女			
駿河路	十六夜日記	阿仏尼			
	古文小計	(49)		漢文小計	(26)

「別紙2」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 発行者 文英堂309】 (古典A)

a 古文の文章教材の作品名と作者名			b 漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
貴公子たちの求婚	竹取物語				
五人の求婚者への難題提示					
石上の中納言、子安貝の入手に失敗					
煙立ちのぼる、ふじの山					
紀有常	伊勢物語				
小野					
さらぬ別れ					
玉くしげ	大和物語				
水汲む女					
生田川					
落窪の君の生い立ち	落窪物語				
三日の夜の訪れ					
姫君に迫る典薬助					
姫君の失踪と中納言邸の大騒ぎ					
玉の男皇子の誕生	源氏物語	紫式部			
蓬生の宿					
物の怪の出現					
野宮の秋					
住吉詣で					
雪の日子別れ					
野分の六条院					
病める紫の上					
貝合はせ			堤中納言物語		
古今和歌集	古今和歌集(10首)	在原元方・凡河内躬恒・清原深養父・源宗于朝臣 在原業平朝臣・菅原道真・小野小町・僧正遍昭			
後撰和歌集	後撰和歌集(5首)	源信明・元良親王・蝉丸・藤原兼輔・伊勢			
拾遺和歌集	拾遺和歌集(5首)	素性法師・惠慶法師・藤原公任・壬生忠見 藤原道綱母			
上に候ふ御猫は	枕草子	清少納言			
古今の草子を御前に置かせたまひて					
村上の先帝の御時に	和泉式部日記	和泉式部			
夢よりもはかなき世の中を					
秋のけはひ入り立つまに	紫式部日記	紫式部			
古文小計		(31)	漢文小計		(0)

「別紙2」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 発行者 文英堂311】 (古典A)

a 古文の文章教材の作品名と作者名							
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等		
つれづれなるままに	徒然草	兼好法師	春はあけぼの	枕草子	清少納言		
公世の二位のせうとに			正月一日は				
仁和寺にある法師			卯月のつごもり方に				
これも仁和寺の法師			九月ばかり				
延政門院			五月ばかりなどに山里にありく				
西大寺の静然上人			すさまじきもの				
丹波に出雲といふ所			過ぎにしかた恋しきもの				
亀山殿の御池に			鳥は				
ある人、弓射ることを習ふに			あてなるもの				
能をつかんとする人			ありがたきもの				
よろづの道の人			上に侍ふ御猫は				
よき細工は			中納言参りたまひて				
家居のつきづきしく			二月つごもりごろに				
神無月のごろ			五月ばかり、月もなういと暗きに				
久しく隔たりて			村上の先帝の御時に				
今日は、そのことをなさんと			雪のいと高う降りたるを				
達人の人を見る眼は			この草子				
園の別当入道は			古文小計			(59)	
折節の移り変はるこそ			b 漢文の文章教材の作品名と作者名				
万の事は、月見るにこそ					教材名	作品名	作者名等
雪のおもしろう降りたりし朝							
花はさかりに							
あだし野の露							
五月五日、賀茂のくらべ馬を見はべりしに							
大事を思ひたたん人は							
蟻のごとくに集まりて							
つれづれわぶる人は							
世に従はん人は							
人間の営みあへるわざを見るに							
八つになりし年							
いろはの連歌							
能は歌詠み			古今著聞集				
刑部卿教兼と、その北の方							
文字一つの返し	十訓抄						
笛吹きの方と名器「大丸」							
きこりの歌							
伴大納言応天門を焼く	宇治拾遺物語						
猿沢の池の竜の事							
夢を買ふ人の事							
安養の尼と強盗	古事談						
受領は倒るる所に土をつかめ							
わが影に恐れをなす男	今昔物語集						
				漢文小計	(0)		

「別紙2」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 発行者 筑摩312】 (古典A)

a 古文の文章教材の作品名と作者名			b 漢文の文章教材の作品名と作者名				
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等		
くれまどふ心の闇	源氏物語	紫式部	陶朱公范蠡	史記	司馬遷		
かかやく日の宮			莊子				
廃院の怪			韓非子				
車争ひ			刎頸之交				
嵐の夜			相聚謀反				
夢の心地			前出師表	古文真宝・後集	諸葛亮		
鶯の初音			五柳先生伝	陶淵明集	陶淵明		
花の蔭			与孟東野書	韓昌黎集	韓愈		
罪の子			鈇鋤潭記	唐宋八家文読本	柳宗元		
形見の文殻			傷仲永	臨川先生文集	王安石		
霧の中のかいま見							
髪の香							
宇治の川音							
夢の世							
時平と道真			大鏡				
宣耀殿の女御							
中宮安子の嫉妬							
最後の除目							
道長と伊周							
隆家と道長							
鶯宿梅							
俳諧歌・連歌	俊頼髓脳	源俊頼					
おほかた歌の姿は	後鳥羽院御口伝	後鳥羽天皇					
因果の花	風姿花伝	世阿弥					
等類の事	三冊子	服部土芳					
切れ字の事							
物語に言へるよき悪しき	源氏物語玉の小櫛	本居宣長					
もののあはれ論							
古文小計		(28)	漢文小計		(10)		

「別紙2」 【(1) 内容イ 調査項目の具体的な内容 発行者 第一313】 (古典A)

a 古文の文章教材の作品名と作者名

教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等		
渚の院	伊勢物語		祇王	平家物語			
さらぬ別れ			横笛				
旅寝の夢	大和物語		若君の結婚	とりかえばや物語			
いはで思ふ			悩める若君				
はいずみ	堤中納言物語	若君の失踪					
菅原道真の左遷	大鏡		継母のたばかり	住吉物語			
村上天皇と中宮安子			姫君の失踪				
関白は次第のままに			住吉での再会				
道隆の酒好き			古今和歌集仮名序	古今和歌集	紀貫之		
道長と女院詮子			俊頼髓脳	俊頼髓脳	源俊頼		
佐理の大忒			毎月抄	毎月抄	藤原定家		
行成の器量			三冊子	三冊子	服部土芳		
中納言争ひ			虚実皮膜論	難波土産	近松門左衛門		
二葉の葵			源氏物語玉の小櫛	源氏物語玉の小櫛	本居宣長		
敦明親王の東宮辞退			古文小計		(44)		
b 漢文の文章教材の作品名と作者名							
					教材名	作品名	作者名等
			源氏物語	紫式部	答陳商書	昌黎先生文集	韓愈
藤壺の宮の入内					黠鼠賦	經進東坡文集事略	蘇軾
夕顔の死	飛雲渡	南村輟耕錄			陶宗儀		
藤壺の宮との過ち	完璧帰趙論	弇州山人四部稿			王世貞		
物の怪の出現—葵の上の出産—	替鬼做媒	子不語			袁枚		
野宮の別れ	織女	搜神記			干宝		
明石の君との出会い	売鬼						
須磨の絵日記	買粉兒	幽明録			劉義慶		
明石の君の苦悩	壺中天	蒙求			李瀚		
六条院の新春							
螢火のいたづら							
野分の日の垣間見							
女三の宮の降嫁							
柏木の懸想							
薫の五十日の祝ひ							
紫の上をしのぶ							
				漢文小計	(9)		

「別紙2」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 発行者 第一314】 (古典A)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名			
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等	
平中が事	古本説話集		助長	孟子	孟軻	
文字一つの返し	十訓抄		嬰逆鱗	韓非子	韓非	
小式部内侍が大江山の歌の事	古今著聞集		画竜点睛	歴代名画記	張彦遠	
火鼠の皮衣			推敲	唐詩紀事	計有功	
帝の求婚	竹取物語		水魚之交	十八史略	曾先之	
かぐや姫の昇天			赤壁之戰			
初冠			死諸葛走生仲達			
通ひ路の関守			鹿柴		王維	
あづさ弓	伊勢物語		絶句		杜甫	
小野の雪			峨眉山月歌		李白	
さらぬ別れ			春夜		蘇軾	
つひにゆく道			臨洞庭		孟浩然	
昔の衣		大和物語		遊山西村		陸游
姨捨			鴻門之会	史記	司馬遷	
うつほの母と子	宇津保物語		四面楚歌			
公世の二位のせうとに			孟子(二編)	孟子	孟軻	
相模守時頼の母は	徒然草	兼好法師	老子(三編)	老子	老子	
吉田と申す馬乗り				莊子(二編)	莊子	莊周
よろづのことは頼むべからず				韓非子(二編)	韓非子	韓非
ゆく川の流れ	方丈記	鴨長明	枕中記	文苑英華	沈既濟	
安元の大火						
春は、あけぼの						
中納言参り給ひて	枕草子	清少納言				
雪のいと高う降りたるを						
すさまじきもの						
忠度の都落ち						
能登殿の最期	平家物語					
大原御幸						
雲林院の菩提講						
延喜の帝						
時平と道真	大鏡					
道隆と福足君						
道長の豪胆						
弓争ひ						
道長と伊周						
三舟の才						
鶯宿梅						
万葉集(10首)	万葉集	額田王、大海人皇子、柿本人麻呂、山上憶良、山部赤人、大伴家持、東歌、防人歌				
古今和歌集(仮名序、7首)	古今和歌集	紀貫之、凡河内躬恒、僧正遍昭、壬生忠岑、清原深養父、よみ人知らず、小野小町				
新古今和歌集(6首)	新古今和歌集	藤原定家、後鳥羽院、藤原家隆、式子内親王、藤原俊成女、西行法師				
光る君誕生						
夕顔	源氏物語	紫式部				
若紫						
葵の上						
須磨の秋						
明石の君と姫君						
貝合	堤中納言物語					
父大納言の苦惱	とりかへばや物語					
泔坏の水	蜻蛉日記	藤原道綱母				
日本紀の御局	紫式部日記	紫式部				
門出						
源氏の五十余巻	更級日記	菅原孝標女				
古文小計		(52)	漢文小計		(20)	



「別紙3」【(2) 構成上の工夫】 (古典A)

発行者	教科書番号	教科書名	構成上の工夫
東書	301	古典A	<p>・「日本文化と漢字・漢文」というコラムを設け、日本文化の発展と漢字・漢文の影響について記載している。</p> <p>・翻訳家の視点から源氏物語の自然観について述べている「サイデンステッカーと『源氏物語』の自然観」(ハルオ・シラネ)という文章を掲載している。</p> <p>・古文編はジャンル別に3単元で構成しており、特に源氏物語を9巻分掲載している。古文編、漢文編ともに各単元の終わりには「コラム」「言語活動」が掲載されている。</p>
教出	302	古典文学選 古典A	<p>・漢文編の「三国志」章末に、土井晩翠の「星落秋風五丈原」を掲載している。</p> <p>・上田秋成「雨月物語」の「夢応の鯉魚」の教材構成として、冒頭及び結末を石川淳「新釈雨月物語」から引用するとともに、三島由紀夫が「夢応の鯉魚」について書いた文章を掲載している。</p> <p>・「古典の窓」というコラムを7編、「物語の歴史」というコラムを5編掲載し、教材に関する情報や文学史的内容について述べられている。</p>
文英堂	303	説話(古今著聞集・沙石集・十訓抄・竹取物語) 随筆(徒然草・枕草子・方丈記・常山紀談・花月草紙・蘭東事始) 故事・小話 漢詩 史話	<p>・蒙求「螢雪」の参考として「螢の光」、韓非子「守株」の参考として北原白秋の「待ちぼうけ」、孟浩然の「春暁」の参考として、土岐善庵の「春あけぼの」という詩を紹介し、漢詩が日本の詩に与えた影響を示唆している。</p> <p>・大江健三郎『「自分の木」の下で』の「蘭学事始」に触れている部分を掲載し、本書掲載教材である杉田玄白の「蘭東事始」(フルヘツヘンド)と関連付けている。</p> <p>・古文編は随筆を中心とした構成で、特に徒然草を24段分掲載している。漢文編では故事・小話を中心とした構成で、国語総合でもよく見られる文章などを掲載している。</p>
文英堂	304	源氏物語・大鏡・評論	<p>・源氏物語の参考として白居易「長恨歌」を紹介し、漢詩が日本の物語に与えた影響を示唆している。</p> <p>・永井路子の「この世をば」の中で、大鏡の「影をば踏まで、面をや踏まぬ」の登場人物に関連の深い部分を抜粋して掲載し、教材と関連付けている。</p> <p>・全て古文で構成され、源氏物語18編、大鏡12編、歌論・俳論などの評論11篇を掲載している。源氏物語では、省略された部分の概説が見られる。言語活動教材として、大鏡「隆家と道長」を取り上げている。</p>
第一	305	高等学校 標準古典A 物語選	<p>・漢文編の最後に、漢文が芥川龍之介の小説に与えた影響について述べた「言語活動 換骨奪胎」を掲載している。</p> <p>・古文編の最後に「言語活動 伝統と文化」という章を設け、語源や語義等に関する大野晋や坂倉篤義の文章を掲載している。</p> <p>・古文編は物語を中心とした構成で、特に大鏡を8編、源氏物語を6編分掲載している。また、コラムを7編、「言語活動」という学習課題を5題掲載している。</p>
三省堂	306	古典A	<p>・「古文のとびら・説話と中国の故事」、「漢文のとびら・今に生きる故事成語」というコラムページを設け、中国の故事と説や日本語の関係について述べられている。</p> <p>・「古典に関連した近代の文章を読もう」というページを設け、芥川龍之介の「地獄変」を掲載している。</p> <p>・「古文のとびら」と題したコラムページを6編、「漢文のとびら」と題したコラムページを3編掲載している。</p>

「別紙3」【(2) 構成上の工夫】 (古典A)

発行者	教科書番号	教科書名	構成上の工夫
大修館	307	古典A 物語選	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「古典に親しむ」という章を設け、興膳宏「日本語に生きる漢語」を掲載しているほか、「展開」というコラムの中で、武田泰淳「鴻門の会」、茨木のり子「古潭」などを掲載している。</li> <li>・「古典に親しむ」という章を設け、久保田淳「春と秋—古典歳時記」、大岡信「百人一首の恋の歌」を掲載している。</li> <li>・「古典の窓」というコラムを8編設け、教材に関する情報を掲載しているほか、「古典の人物」と題した系図や「百人一首」「発句でたどる『奥の細道』」などを折り込みページとして収録している。</li> </ul>
文英堂	309	物語(竹取物語 伊勢物語 大和物語 落窪物語 源氏物語 堤中納言物語) 和歌(古今和歌集 後撰和歌集 拾遺和歌集) 随想・日記(枕草子 和泉式部日記 紫式部日記)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教材の「学習の手引き」で我が国の言語文化の基礎に関する学習が設定されている。</li> <li>・伊勢物語の「紀有常」に関連付けて、俵万智の「恋する伊勢物語」を掲載している。</li> <li>・全て古文で、物語を中心とした構成になっている。紫式部日記の「秋のけはひ入り立つままに」を言語活動教材として扱い、表現活動を取り入れている。</li> </ul>
文英堂	311	徒然草 説話(古今著聞集十訓抄 宇治拾遺物語 古事談 今昔物語集) 枕草子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・枕草子の「雪のいと高う降りたるを」の注に、「白氏文集」の七言律詩を掲載している。</li> <li>・宇治拾遺物語の「猿沢の池の竜の事」と関連付けて、芥川龍之介の「竜」を掲載している。</li> <li>・全て古文で構成され、随筆が中心である。徒然草から30編、枕草子から17編を掲載している。枕草子の「ありがたきもの」を言語活動教材として扱い、表現活動を取り入れている。</li> </ul>
筑摩	312	古典A [古文・漢文] 物語・史伝選	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のための手引きを、各教材ごと読解・表現二分野で設定し、我が国の言語文化の基礎に関する学習を設定している。</li> <li>・源氏物語と関連付けて、鈴木日出男「『源氏物語』の虚構」を掲載している。</li> <li>・古文の物語を中心とした構成で、源氏物語から14編、大鏡から7編掲載している。</li> </ul>
第一	313	高等学校 古典A 大鏡 源氏物語 諸家の文章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大野晋「古代人と会話ができるか」を掲載し、言語文化と伝統について述べている。</li> <li>・阪倉篤義「語源と語義」を掲載し、「日本霊異記」、「新撰字鏡」を例示しながら日本語の語源について述べている。</li> <li>・古文の物語を中心とした構成で、大鏡から10編、源氏物語から15編掲載している。古文10教材に言語活動を設定し、表現活動を取り入れている。</li> </ul>
第一	314	高等学校 改訂版 標準古典A 物語選	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古文編の最終章に「伝統と文化 言語活動」が設定され、古代人の発音、語源・語義に関する大野晋と阪倉篤義の文章を掲載している。</li> <li>・漢文編の最終章の「言語活動」において、「換骨奪胎」と題したコラムを掲載し、芥川龍之介の「黄梁夢」と「沈中記」を比較をする課題を設定している。</li> <li>・古文編は物語を中心とした構成で、伊勢物語6編、大鏡9編、源氏物語6編などが掲載されている。また各章末にコラムを7編、「言語活動」を5題掲載している。</li> </ul>